



## チーム医療の要となる医師の研修・教育への貢献が期待される新テキスト 新臨床栄養学 第2版

馬場 忠雄, 山城 雄一郎 編

雨海 照祥, 佐々木 雅也, 宮田 剛, 島田 和典 編集協力

B5 頁 792 2012 年

定価 12,600 円(本体 12,000 円 + 税 5%)

[ISBN978-4-260-01615-5] 医学書院刊

[評者] 島本 和明(札幌医大・学長)

栄養士、管理栄養士の先生方と学会や研究会と一緒にになると、よく言われることは、医師は栄養学についてきちんと学んでいない、知らない、興味が無い、そのような先生が多いという不満です。栄養学に関しては、我流で患者さんに接している医師が多く、栄養士の先生方が困ることもあるそうです。

確かに、自分自身で考えても、栄養学について系統的に授業を受けたことはありませんでした。栄養学という独立した講座は本学になく、医学部の中でも栄養学講座を持っている大学は極めて少ないのが実情です。講座がある学校でも、栄養学部を併設している場合か、糖尿病など栄養に密接に関連する臨床教室が名前をつけているケースが多く見受けられます。一方で、高血圧や糖尿病、脂質異常症、動脈硬化、肥満などの分野では、国の健康日本21政策もあって、予防医学の概念が重視され、栄養学についても討論、研究、そして応用する下地ができています。特に、特定健診・特定保健指導が開始されて5年たち、種々の医学分野で食事療法、栄養学の概念がより大きな存在となってきました。

そのような中で、『新臨床栄養学』の第1版が岡田正先生の編集で2007年に刊行され、広く栄養学の学習、研修に役立ってきました。今回、馬場忠雄先生、山城雄一郎先生の編集の下、新しい執筆者を加えて第2版が出版されました。まず大きな特徴は、総論で、医学部における栄養学的重要性につい

て、医学栄養学の歴史、医学部における臨床栄養教育の方向の2項で、わが国の医学栄養学の現状と課題が整理されており、医学教育に当たるものは、まずこの総論だけでも読んでいただきたいところです。

基礎編においては、病態生化学と病態生理学が遺伝子発現やサイトカインなど新しい情報も網羅して紹介されています。臨床編では、栄養アセスメント、栄養法、疾患と栄養がまとめられています。よく整理されており、大変わかりやすいです。特にトピックスにおいてサルコペニアやNST、エビデンスとガイドラインなど実地医療にも有益な新しい情報が紹介されています。NSTを擁することは総合病院では当然のようになってきている現在ですが、チーム医療の要となる医師の力量が期待され、問われているともいえます。NST担当医師の研修に、教育に本書が広く貢献することが期待されます。

医学教育における栄養学的重要性を再認識し、大学における教育制度の改善の必要性を感じつつ読ませていただきました。一方、わが国においては特定健診・特定保健指導が開始されて5年を経過しました。特定保健指導の中核は食事療法であり、栄養指導です。見直しを行い、改善して2013年度より第2期目の特定健診・特定保健指導がスタートします。このようなシステムを遂行する上でも有用な書物であると確信しています。